

IgG4 関連疾患の罹患臓器パターンと臨床所見に関する検討

研究分担者氏名：半田 知宏 所属先：京都大学大学院医学研究科 呼吸不全先進医療講座 役職：特定准教授

研究要旨：IgG4 関連疾患における罹患臓器のパターンやその特徴は明らかとなっていない。本研究では、IgG4 関連疾患 99 例を対象に階層的クラスター解析を行い、各クラスターの特徴について検討した。その結果、IgG4 関連疾患は 5 つのクラスターに分類され、脾臓優位群では悪性腫瘍の頻度が高かった。また、呼吸器病変は 5 群のなかの 3 群のいずれかに分類された。

共同研究者（班員）

松井祥子（富山大学保健管理センター）、山本洋（信州大学第一内科）、吉藤元（京都大学医学部附属病院 免疫・膠原病内科）、児玉裕三（神戸大学医学部附属病院 消化器内科）、妹尾浩（京都大学医学部附属病院 消化器内科）、三森経世（京都大学医学部附属病院 免疫・膠原病内科）

A. 研究目的

IgG4 関連疾患を罹患臓器のパターンによって分類し、各病型の臨床的特徴を明らかにすること。

B. 研究方法

国内 3 施設（富山大学、信州大学、京都大学）で IgG4 関連疾患と診断された 99 症例を対象とした。IgG4 関連疾患の診断は CDC 基準と IgG4 関連呼吸器疾患の診断基準により、診断確定群を対象とした。涙腺、顎下腺、肺、脾、腎、後腹膜線維症/大動脈周囲の病変の有無で階層的クラスター解析を行い、群間で臨床情報を比較した。

C. （倫理面への配慮）

各研究協力施設の倫理委員会の承認を得て施行した。

D. 研究結果

階層型クラスター解析にて、IgG4 関連疾患は 5

つのクラスターに分類された。クラスター 1：肺優位 クラスター 2：顎下腺優位 クラスター 3：RPF/Ao 周囲優位 クラスター 4：脾臓優位 クラスター 5：Mikulicz+全身 脾臓優位群では悪性腫瘍の頻度が高かった（37%）。脾臓優位群（95%）、Mikulicz+全身群（89%）で気道アレルギーの罹患率が高かった。

Mikulicz+全身群で有意に年齢が低かった。肺病変を有する症例は、肺優位群、脾臓優位群、Mikulicz+全身のいずれかに属していた。

E. 考察

IgG4 関連疾患および IgG4 関連呼吸器疾患は、罹患臓器によってクラスター分類することで臨床的特徴の異なる群に分類可能である可能性が示唆された。今後全身治療の有無、再燃や最終転帰との関連について検討する予定である。

E. 結論

IgG4 関連疾患は、罹患臓器によってクラスター分類することで臨床的特徴の異なる群に分類可能である

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし